

— 総説 —

子ども虐待問題の理解と我が国の動向

鈴木 昭

新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻福祉学分野

The current trends of the problem and understanding of child abuse and neglect in Japan

Akira Suzuki

Division of Social Welfare, Department of Oral Health and Welfare, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

平成 23 年 10 月 12 日受付 10 月 12 日受理

キーワード：子ども虐待，相談通告，ソーシャル キャピタル，福祉コミュニティ，要保護児童対策地域協議会

【緒 言】

かつて子どもの人権がなかった時代，虐待を受けていた少女を救出するために，動物虐待防止協会の助力を必要とした^{1), 2)}。少女も動物の一員であるから保護されるべきという理窟であった

今，子どもの人権が人口に膾炙し豊かな社会にあって，子ども虐待問題は公衆衛生，社会福祉両面から取り組まれているが，地球規模で大きな課題となっている³⁾。我が国では依然として新たな文明社会型子ども虐待^{4), 5), 6)}が増加し続けている。平成 22 年度子ども虐待の取扱件数は，児童相談所 55,152 件（速報値）にのぼっている。

「今日の私たちは、『次第にたちゆかなくなるかもしれない』という不安をいだいているような気がする。いったい何がたちゆかなくなるのか。自分の生活が，なのか。仕事が，なのか。人間関係や家族が，なのか。そのすべてに可能性がある。いまは大丈夫でも将来の生活も大丈夫なのかと問われれば確信はない⁷⁾。子育てを覆うこのような不安が，増大する子ども虐待の裾野の一端を形成しているのではないか⁸⁾。子ども虐待を惹起する要因は，社会経済状況や地域，家族の変貌の影響をうけ多岐にわたるが，その根底には子育てをめぐる不安，負担，孤立が横たわっている⁹⁾。子ども虐待の問題は古くて新しい問題である。「生活水準もあがり人権が尊重される時代に（子どもたちが），虐待の犠牲者になっているとすれば，それは医療，衛生，福祉関係者にとって，怠慢

といわざるを得ない¹⁰⁾」状況が続いている。

本稿では，コミュニティの問題として子ども虐待—子ども虐待をなくすまちづくりという観点から，子ども虐待の動向とその課題について，概観していくことにする。

【子ども虐待問題略史】

洋の東西を問わず，民話や童話には虐待や子殺しなど残酷な場面が多く登場する。子ども虐待のとらえ方は民族，時代，文化，制度等の規定を受けることから「歴史的にみると子ども虐待を明確に定義づけることは難しい¹¹⁾」が，「いつの時代でも，どの国においても，子どもはつねに虐げられてきた。殺害，餓死，人身売買，遺棄，放置，重労働，折檻，体罰」と¹²⁾。イギリスでは産業革命が起き，機械化，都市化が進むなか，児童労働を大量に出現させ一部工場法（1833 年。日本でも明治 30 年 = 1897 年に工場法が起草され 10 歳未満の幼児の使役は禁止されたが，工業の発達を妨げるとして成立は 44 年，実施は大正 5 年までもちこされた）や救貧法（1834 年）が成立するが，子どもの人権は無視されてきた。ロンドン貧民街を舞台に救貧院で暮らす子どもの過酷な運命は小説「オリバー・ツイスト」（チャールズ・ディケンズ，中村能美訳，新潮文庫）に詳しい。

欧米で子ども虐待の問題について人々に関心を向けさせた契機は，19 世紀後半 1874 年，アメリカにおける少女 Mary Ellen 事件であった。子どもの人権が認められ